

## 基本施策5 読書活動の推進

### 具体的な施策2 読書環境の整備

取り組み		取り組み内容	担当	評価 (現状、課題、今後の方向性等)
家庭	本にふれる機会の充実	本にふれる機会を増やすため、図書館や書店に出かけたり、家庭内で読み聞かせを行うよう働きかける。	図書館	本に触れる機会を増やすため、また図書館の利用促進の一環として、読み聞かせのイベントを図書館にて定期的に開催している。
幼稚園・保育所・認定こども園	蔵書数の充実	子どもが多くの絵本に出会えるように、また、自分の好きな本を見つけることができるように、各施設の蔵書数を増やす。	幼稚園・保育所・認定こども園	就学前施設の蔵書については適宜購入しており、今後も充実化に努める。
	おやこ広場での読書環境整備	本にふれる機会を増やすため、地域の親子が気軽に参加することができるイベントなどを開催する。	おやこ広場	現状として、子育て講座「絵本劇場＆わらべうたあそび」などを開催し、絵本に触れる機会を作っている。また、各おやこ広場で絵本を手にとって見てもらえるようにしている。 課題として、新型コロナの影響で絵本の貸出ができないため、興味を持ってもらった絵本があっても、家に持って帰ってさらにその絵本に触れてもらうということができない。 方向性として、今後もイベントの開催を継続していく。イベントの周知を図るとともに、各おやこ広場で絵本に興味を持ってもらった親子に、別のおやこ広場を紹介して新たな絵本に触れてもらえるようにする。

取り組み		取り組み内容	担当	評価 (現状、課題、今後の方向性等)
学校図書館	蔵書数の充実	子どもが多くの本に出会えるように、また、自分の好きな本を見つけることができるように、各施設の蔵書数を増やす。	各小中学校	現状として、5か年計画において蔵書数の充実を図っており、令和4年度が3年目となる。 課題として、各校蔵書の分類が9類に偏っており、9類以外の蔵書も刊行年が古く、資料としてふさわしくないため、更新のサイクルを考えると、蔵書数の充実には時間がかかるものと考えられる。今後の方向性として、9類以外の蔵書の充実を図るとともに、サブスクリプション制電子書籍の導入を検討し、児童生徒が本と出会う場面の充実に努める。
	図書館と連動する蔵書検索システムの構築	多くの本に出会うため、学校図書館だけでなく、図書館の蔵書も検索できるよう、学校と図書館の連動システムを構築する。	図書館 各小中学校	市立図書館と学校図書館のシステムの統合により、資料の検索や貸出など、相互の連携が可能になった。また図書館員が各小学校を訪問し、機器の操作等についての相談に応じている。今後は連携システムを活かした学校支援を強化する。 (図書館) 現状として、学校図書館と図書館が連動した蔵書検索システムを利用し、図書館の蔵書も検索することができる。課題として、検索した本を学校図書館で借りるための本を運ぶシステムが整備されていない。 今後の方向性として、児童生徒が学校で予約すれば、いずれの館の本であっても借りられるシステムの構築をめざす。 (各小中学校)
	学校図書館地域開放事業の促進	学校図書館を地域コミュニティの拠点として開放し、地域住民の読書環境を整備するとともに、親子での利用促進を行う。	生涯学習課 (再掲)	

取り組み		取り組み内容	担当	評価 (現状、課題、今後の方向性等)
図書館	児童書の充実	幼児期から本に親しむ環境を整備し、読書の習慣化を推進するため、多くの絵本に触れ、自分の好きな絵本を見つけることができるよう、児童書数の充実を図る。	図書館	改めて蔵書構成の基準を定め、それに基づいた児童書数の充実を図っている。今後も公共図書館として望ましい蔵書構成になるよう努める。
	年齢別書籍コーナーの整備	図書館で、各年齢層で読みたい本に出会えるよう、書籍の並び替えや、児童コーナーやヤングアダルトコーナーなど、年齢層別の書籍コーナーを設置する。	図書館 (再掲)	
	読書手帳の配布	本を読むのが楽しくなるきっかけ作りとして「読書手帳」の配布を推進する。	図書館	借りている資料名を機械印字できる「本の通帳」を市内小中学生に配布。令和4年9月からは2冊目以降を無料配布し、読書が楽しくなるようなきっかけ作りに努める。
	図書館と連動する蔵書検索システムの構築	多くの本に出会うため、学校図書館だけでなく、図書館の蔵書も検索できるよう、学校と図書館の連動システムを構築する。	図書館 (再掲)	
	予約機能の利用推進	多くの書籍に触れる機会を増やすため、予約を受けた書籍は、府立図書館や他市の図書館からの貸し出しなども利用し、できる限り迅速に提供するなど、書籍の予約利用を推進する。	図書館	必要な資料が購入できなかった場合は、府内だけでなく府外からも相互貸借制度を利用して借り受け、できる限り提供するよう努めている。
	広域利用の促進	泉北4市1町（堺市・泉大津市・高石市・和泉市・忠岡町）の図書館の相互利用を促進する。	図書館	移転前は泉大津在住・在勤・在学者と泉北4市1町の市民のみが図書館カード作成可能であったが、移転後はその範囲を広げ日本在住なら誰でもカードを作成できるようになった。そのため市外利用者の登録が増加した。今後も広域利用を通じて図書館を中心とする関係人口の増加を目指す。
	図書館施設機能の検討	図書館施設の役割や施設の整備について検討を行う。	図書館	図書館協議会を設置し、年2回会議を行っている。

取り組み		取り組み内容	担当	評価 (現状、課題、今後の方向性等)
	生涯学習施設などにおける図書の充実	生涯学習施設などの空きスペースを利用し、書籍の充実を行う。	生涯学習課	南北公民館には、読書スペースを設けており、書架には図書館のリサイクル本や寄贈された本を設置している。今後も書籍の充実を図っていきたい。
地域	読書ネットワークの強化	地域で読書活動を推進している団体と意見交換や情報交流を行うために、関係者が集まれるネットワークを構築する。	生涯学習課	地域で読書活動を推進している団体の把握に努めている。今後、まちぐるみ図書館を進めていく上でも必要であると考えている。
	活動支援の強化	読書活動を推進している個人や団体に対し、それぞれが活動できる場所や参加できるイベントの情報を提供する。また、それぞれの活動内容を地域に発信する。	生涯学習課	地域開放している学校図書館や地域施設ほか、まちぐるみ図書館において活動できるように、場所の提供や拡充、情報発信に努める。 あわせて、関係者間での意見交換や活動内容の共有の場も設ける。
	学校図書館地域開放事業の促進	学校図書館を地域コミュニティの拠点として開放し、地域住民の読書環境を整備するとともに、親子での利用促進を行う。	生涯学習課 (再掲)	